

丹波地域における鹿谷古墳の位置付け

－墳丘の分析を中心に－

荒 木 瀬 奈

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

丹波地域における鹿谷古墳の位置付け

－墳丘の分析を中心に－

荒木 瀬 奈

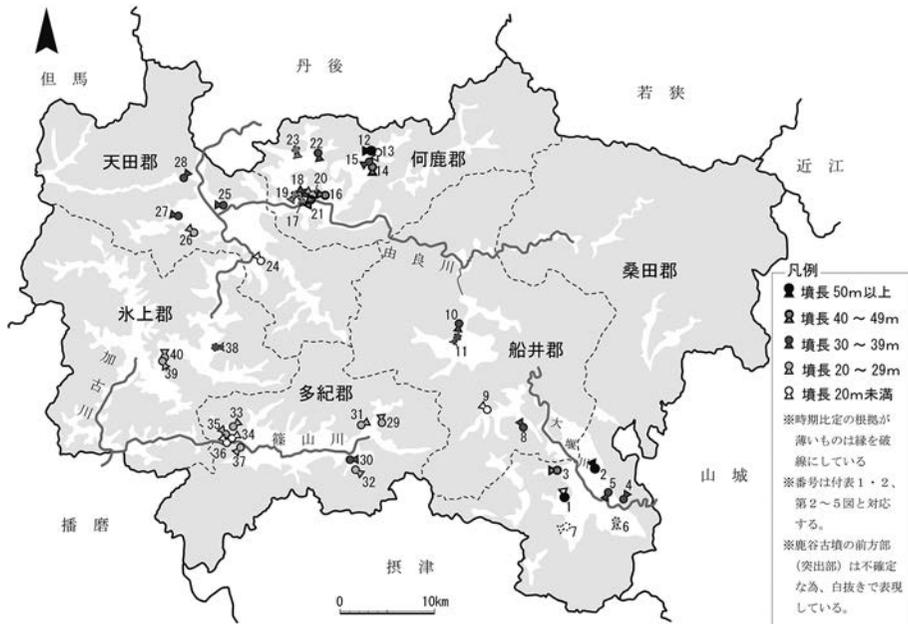
1. はじめに

鹿谷古墳は、亀岡市西部の蕨田野町大字鹿谷^(注1)に所在する(第1図1)。明治時代にイギリス出身であり日本考古学の父とされるウイリアム・ゴーランド(1842-1922年)による調査・記録が残されている。2010年からゴーランド・コレクション調査プロジェクトにより測量調査が行われた。測量図と京都国立博物館に所蔵されている調査当時に作成された絵図との比較検討から、明治14(1881)年に地元民・ゴーランド・京都府が調査記録を残し、現在も大英博物館に出土遺物が保管されている古墳である可能性が高まった^(注2)。

測量調査の結果、行者山南麓の丘陵尾根頂部(標高282m)の地点に位置する鹿谷古墳は、径38m、高さ5～8mの円丘部の北西側に、長さ16.0m、最大幅8.0m、高さ2.0mの突出部を確認し、墳長55.0mを測る前方後円墳(造出付円墳)となる可能性が浮上した。円丘部のみでも、同時期の亀岡盆地内では見られない規模を持つ。また、円丘部には2段の段築や、墳丘裾に石列が確認できる箇所もある。同プロジェクトによる遺物の調査によって、金銅装馬具・刀剣類・装飾須恵器などの豊富な遺物を持つことや、内部構造が石柵と仕切石を設置する横穴式石室である可能性も見出されている。古墳時代後期、特に千歳車塚古墳以降の丹波地域の主要古墳の動態を考える上で重要な位置を占める。丹波地域の古墳の動態・編年については、平良泰久・瀬戸谷皓(平良・瀬戸谷1990)、前方後円墳集成(1992)、細川修平・今尾文昭(細川、今尾2011)、京都府埋蔵文化財研究会(2000・2015)などの研究がある。これらの諸研究を参考に、古墳時代後期の丹波地域における鹿谷古墳の位置付けについて、主に墳丘に着目して検討する。なお、古墳時代後期の開始時期については、前方後円墳集成編年^(注3)に従い、陶邑編年TK23・47型式併行期からとする立場をとる。

2. 丹波地域における古墳時代後期の前方後円墳の分布状況

丹波地域は近畿地方中西部、現在の京都府中部から兵庫県東部付近の範囲であり、6郡に区分され、京都府側では桑田郡・船井郡・何鹿郡・天田郡、兵庫県側では多紀郡・氷上郡に分けられる。中国山地の東端となる丹波高地が広がる山間の地域であり、大堰川、由良川、加古川水系が形成する大小の盆地が点在する。また、中央分水界にあたり、大堰川・



第1図 丹波の後期前方後円墳分布図(1/800,000) ※番号は巻末付表に対応

加古川は瀬戸内海に注ぎ、由良川は日本海に注ぐ。

丹波地域で現在確認されている古墳の中で、古墳時代後期に築造された前方後円墳として、不明瞭なものを含めて40基を抽出した(第1図・巻末付表)。

(1) 桑田郡

現在の亀岡市と京都市北部の旧京北町域に相当する。大堰川流域の亀岡盆地に古墳時代後期の丹波で最大規模の墳丘を持つ千歳車塚古墳をはじめとする30~80m規模の前方後円墳が、大堰川を隔てた東西に点在する。

中期末から後期初頭に盆地東南部の保津車塚古墳が築造される。丹波地域で唯一木製土物出土している。後期前半に盆地北東部に千歳車塚古墳が築造される。墳長82mであり、3段の段築と2重の周濠などの傑出した規模・内容を持つ。この他、前後する後期前半頃に岩橋型横穴式石室を持つ拝田16号墳や、埴輪をもつ石堂古墳が築造される。続くMT85型式期に鹿谷古墳が築造される。これらの他に、時期不明の野条古墳と穴太12号墳が後期に築造された可能性がある。

鹿谷古墳が分布する行者山山麓には、南側の鹿谷古墳群大市支群、同茶ノ木山支群、鹿谷池田古墳群、稗田野西山古墳群、東側には丹波最大規模の群集墳である小金岐古墳群、北ノ庄古墳群などの多くの群集墳が分布しており、現状で総数約300基を数える。丹波地域内でも特に群集墳が密集する地域と言える。更に、これらの中には、北部九州の横穴

式石室と近似する特徴を持つ石室(北ノ庄13・14号墳)、石棚を持つ石室(拝田16号墳のほか鹿谷古墳群・小金岐古墳群に数基あり)、伯耆地域に多く見られる中高式天井を有する石室(北ノ庄4号墳)などの特異な形態の石室が分布する。特に、石棚を持つ石室は現状で7基程確認されており、全国的に見ても有数の分布状況である。^(注4)

(2)船井郡

南丹市と京丹波町域に相当する。山間部に狭小な小盆地が分布する。亀岡盆地の北側に位置する園部盆地周辺と観音峠以北の丹波高地に30m級の前方後円墳が4基点在する。

園部盆地には、後期初頭に黒田北2号墳が築造される。また、詳細な築造時期は不明であるが、横穴式石室を持つうさの古墳が築造される。丹波高地の2基の内、カナヤ1号墳については内部主体が横穴式石室となる可能性がある。豊田車塚古墳は、後円部墳頂平坦面が広く、堅穴系の埋葬施設を持つ可能性も考えられ、後期以前の築造となる可能性もある。

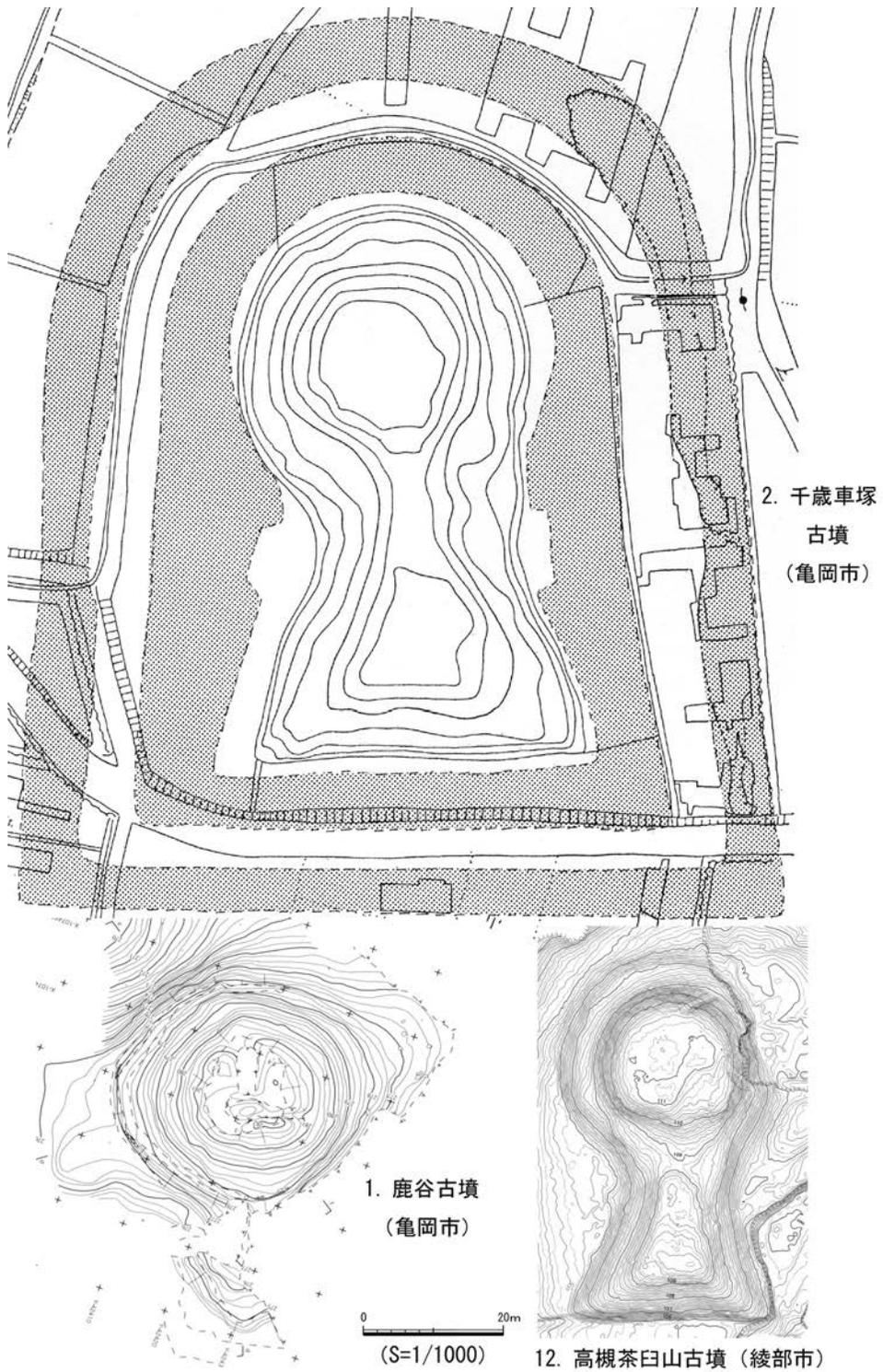
(3)何鹿郡

由良川中流域東部の綾部市域にあたる。由良川流域の古墳については、山城考古学研究会による『丹波の古墳Ⅰ』に詳しく整理されており、^(注5)加えて綾部市域については、三好博喜による精力的な調査・研究が進められている。^(注6)後期の前方後円墳として12基を抽出したが、詳細な築造時期の不明なものが多い。東部の高槻茶臼山古墳等が分布する八田川流域、西部の以久田野古墳群等が分布する犀川流域及び犀川流域のさらに北側の稲荷山古墳が分布する物部地区に前方後円墳の分布が集中する。

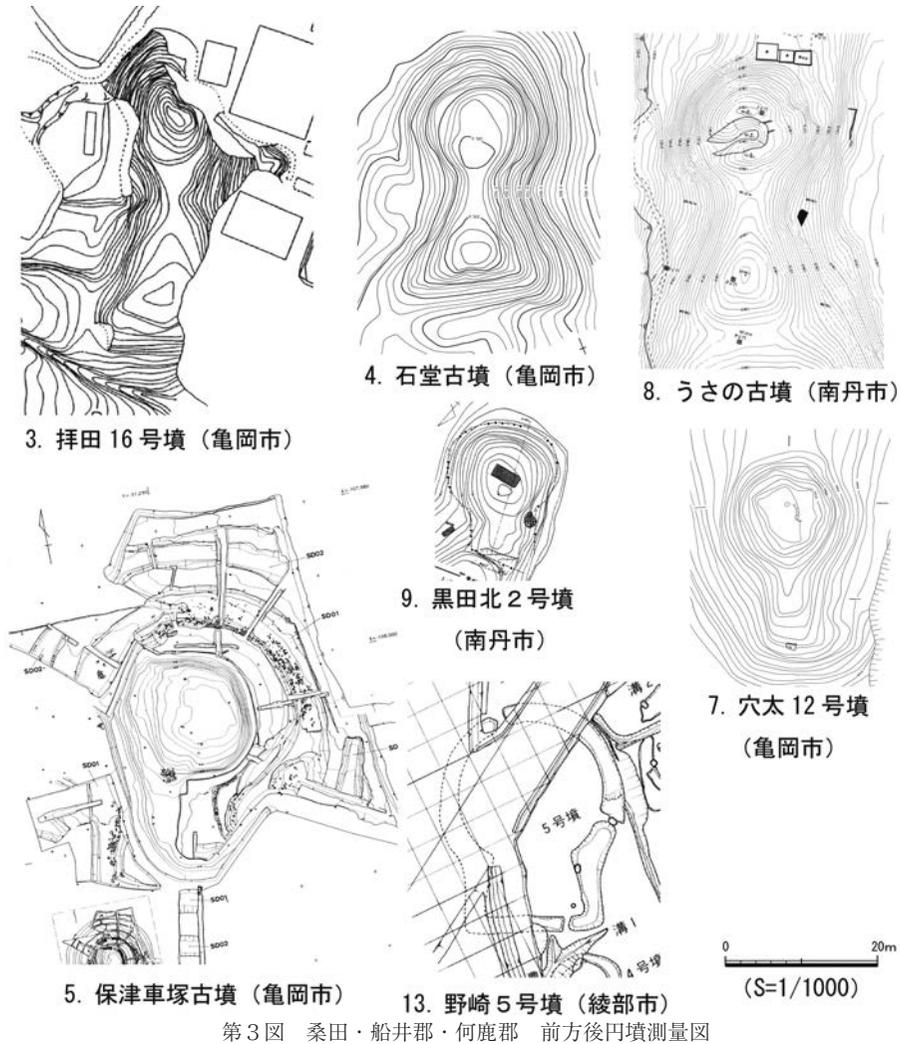
中期末から後期初頭にかけて、以久田野古墳群周辺で、沢3号墳・殿山1号墳・岫山1号墳が築造されたと考える。後期初頭から前半にかけて、八田川流域で野崎5号墳、高槻茶臼山古墳が築造される。高槻茶臼山古墳は、近年の調査により、後円部墳頂部の墓壙上部でMT15型式期の須恵器が確認された。^(注7)丹波地域の後期前方後円墳の中では、千歳車塚古墳に次ぐ規模を持つ。墳頂平坦面が広く、堅穴系の埋葬施設を持つ可能性がある。その後、後期中頃に人物埴輪を持つ上杉1号墳や以久田野78号墳などが築造される。なお、これらの他に、上杉4号墳、桧山5号墳、上杉9号墳、瀬戸18号墳が後期に築造された可能性がある。久田山古墳群中の前方後円墳や造出付円墳にも、当該時期に築造されたものが存在する可能性がある。

(4)天田郡

由良川中流域西部の福知山市域(旧大江町除く)に相当する。盆地内に20～30m級の前方後円墳が5基点在する。最大のもは墳長39.1mを測る妙見11号墳となる。MT15型式期に、円筒埴輪や形象埴輪を持つ稲葉山10号墳が築造され、後期中頃に男塚1号墳が築造さ



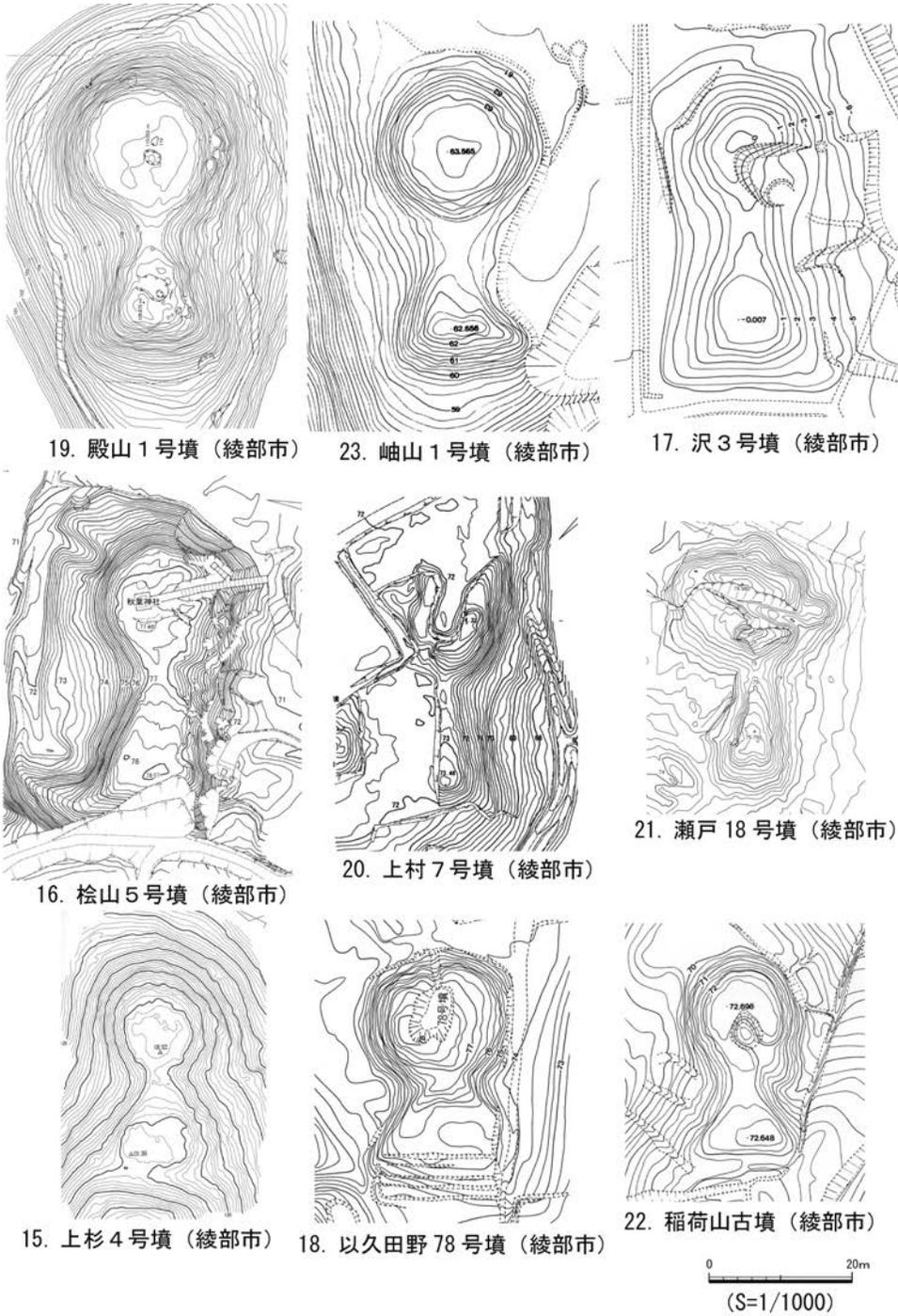
第2図 千歳車塚古墳・鹿谷古墳・高槻茶臼山古墳測量図



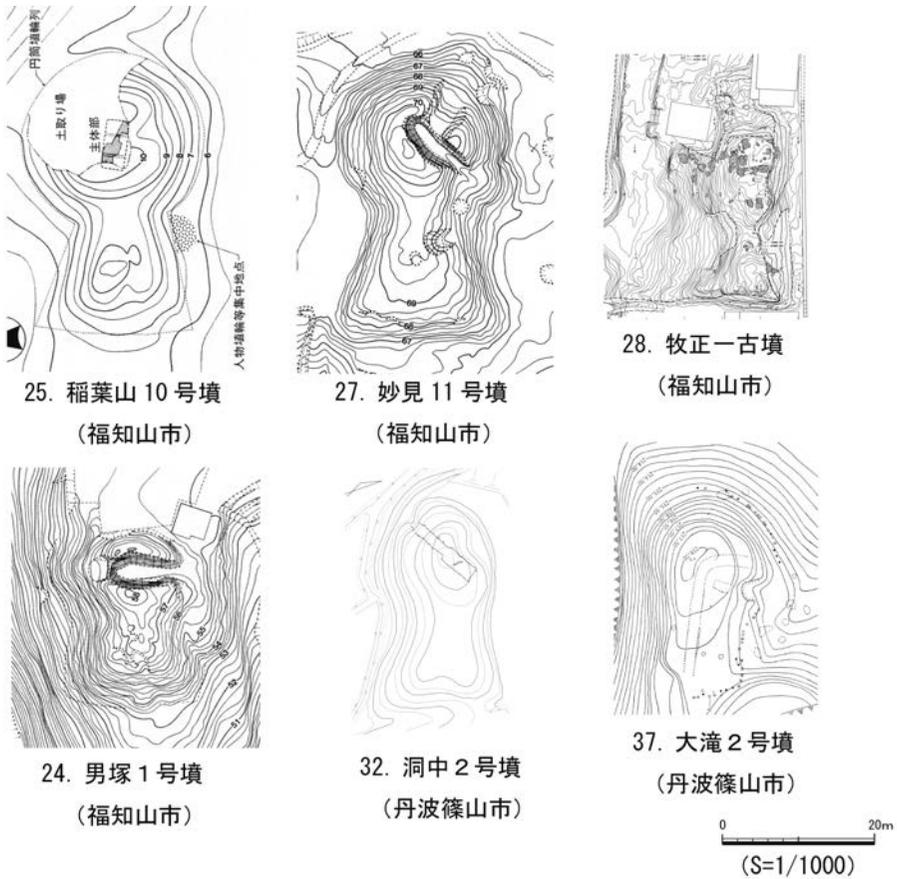
れる。加えて後期中頃には盆地北西部にて、牧正一古墳が築造され、牧古墳群の造営が開始する。牧正一古墳は現状では復元全長34~37mを測り、後円部・くびれ部・前方部にそれぞれ1基ずつ、合計3基の横穴式石室を持つ。牧正一古墳以降は、円墳の弁財1号墳(径25m)・道勘山1号墳(径18.9m)と続くが、いずれも規模の大きな横穴式石室を持ち、弁財1号墳からは金銅装馬具・鉄製品・須恵器が出土している。この他に、妙見11号墳、中之段16号墳は横穴式石室を持つが、詳細な時期は不明である。

(5)多紀郡

加古川から分流する篠山川流域の丹波篠山市域に相当する。この地域では、中期中葉に丹波地域最大の前方後円墳・雲部車塚古墳(墳長140m)が築造される。篠山盆地の東側の



第4図 何鹿郡 前方後円墳測量図



第5図 天田・多紀郡 前方後円墳測量図

旧篠山町域と、西側の旧丹南町域の2箇所に9基の前方後円墳が分布する。後期初頭に小規模ではあるが、埴輪や豊富な副葬品を持つ大滝2号墳が築造される。TK43型式期に盆地東部に洞中2号墳が築造される。続く洞中1号墳は径30mの円墳であるが、全長16mを測る丹波地域最大級の横穴式石室を持つ。他に、T字型石室を持つ稲荷山古墳をはじめとして、20~30m級の前方後円墳が点在するが、詳細な時期は不明である。

(6) 氷上郡

加古川上流域と由良川上流域の丹波市域に相当する。この地域は分水界にあたり、山間に小規模な盆地が点在する。北東部の旧春日町域にて、20~30m級の前方後円墳3基が点在する。石室形態から、後期中頃から後半に坂1・2号墳が築造されたと考えられる。後円部の墳頂平坦面が狭い二間塚古墳は、石室が発見されたという伝承があり、横穴式石室の可能性はある。

(7) 小 結

以上、丹波内の各小地域における後期主要古墳の様相を概観した。前方後円墳の分布は、桑田郡の亀岡盆地、何鹿・天田郡の綾部・福知山盆地、多紀郡の篠山盆地の3か所の広域な盆地にやや集中して分布する。山間の狭小な平野が点在する船井・氷上郡は、前方後円墳に限れば分布密度は薄い。このような状況については先学でも指摘されている。また、上記3箇所の盆地内でも、亀岡盆地のように有力古墳が距離をとって点在する地域や、牧古墳群や洞中古墳群のような有力な系譜が認められる地域、綾部市域のような前方後円墳が複数集中している地域など、盆地毎に状況は多種多様である。

3. 墳丘の比較検討

(1) 規模別の分布状況

墳長82mの千歳車塚古墳は突出した規模を測る。これに次ぐ高槻茶白山古墳とは27mの差がある。ほかに50m級の古墳の可能性のあるものとして鹿谷古墳が挙げられる。高槻茶白山古墳と鹿谷古墳は築造時期には開きがあり、墳丘形態は大きく異なる。40m級の古墳は近似する数値のものも含めれば現状では、桑田郡の拝田16号墳、天田郡の妙見11号墳及び何鹿郡に8基ある。

以上から、亀岡盆地と綾部・福知山盆地の2か所にやや大型の前方後円墳が分布する様子が見られる。30m級以下の前方後円墳については各郡に、10～20m級の前方後円墳は、桑田郡と船井郡を除く各郡に数基程度分布する。

(2) 墳丘形態の比較

まず、後円部の径と高さについて見ていく。後円部径が30mを越える古墳は、千歳車塚古墳(46m)、鹿谷古墳(38m)、高槻茶白山古墳(34m)、拝田16号墳(30m)の4基がある。

鹿谷古墳の円丘部は、千歳車塚古墳に次ぐ規模を持つ。丘陵上にある鹿谷古墳の高さは、場所により前後するものの5～8mを測り、千歳車塚古墳の後円部高の7.5mに匹敵する。一方、前方部は極端に短く、幅は後円部径の4分の1にも満たない。鹿谷古墳の場合は、後円部径/前方部幅が4.75となる。鹿谷古墳を除く計測できた古墳の平均的数値は約1.3であり3倍以上の差がある。また、後円部と前方部の比高差は4.5mを測り、他の計測できた古墳の比高差の平均は約1.4mと大きく異なる。

鹿谷古墳以外の前方後円墳は、後円部径/前方部幅の数値が1.5を超える前方部が開かないものとして、穴太12号墳・黒田北2号墳・豊田車塚古墳・瀬戸18号墳・岫山1号墳・宝地山2号墳・峠尻2号墳・大滝2号墳の9基があり、測量図が無いものも多いものの、特に後期初頭から前半の古墳に多い。断面形を見ると、千歳車塚古墳や高槻茶白山古墳は前方部端が上がり、後円部と同程度のものや、石堂古墳・うさの古墳・上杉4号墳などのよ

うに後円部高を越える古墳が複数確認できる。

墳丘規格の類似性については、三好博喜によって稲荷山古墳(綾部市)・上杉4号墳・松山5号墳・男塚1号墳の4基の墳丘の類似性が指摘されている。^(註8)これらはいずれも前方部幅が開いていく状況が確認できる。

以上のように、丹波地域の後期前方後円墳の中で、大規模な後円部と短小な前方部という特徴を持つ鹿谷古墳の形態はイレギュラーな存在である。

(3) 前方後円墳以外の墳形との比較

以上、鹿谷古墳と前方後円墳との墳丘比較を行った。しかし、現状では、造出付円墳や円墳となる可能性も残る。当該時期の丹波地域において、前方後円墳以外で墳長・径が20mを超える古墳は、20数基確認できた。以下主な古墳について見ていく。

弁財1号墳(径25m)と洞中1号墳(径30m)は、それぞれの盆地内での有力系譜である牧古墳群と洞中古墳群に属し、先代は前方後円墳であり、この2基から円墳に変化する。

福知山盆地の西側の上夜久野盆地の長者森古墳(径23m)は、本来は30m級の円墳で葺石を持つとされる。また、全長約12mを測る横穴式石室を持つ。周辺には他に有力な古墳はなく、福知山盆地と但馬地域を繋ぐ交通の要衝を意識した古墳と考えられる。この他に群集墳の盟主墳に20m級の円墳が散見される。

鹿谷古墳は円墳であったとしても、径38mを測り、2段の段築を持つ可能性が高く、群集墳の盟主墳クラスとは歴然とした差がある。有力系譜に属する弁財1号墳・洞中1号墳や、有力古墳の可能性が高い長者森古墳の3基と比較しても、一回り大きく、円墳とするならば、丹波地域では突出した規模を持つと言える状況である。

(4) 外表施設

段築、葺石、埴輪、周濠の全ての外表施設を持つ古墳は千歳車塚古墳のみであり、1ないし2の外表施設を持つ古墳が多い。

段築を持つ古墳は7基ある。千歳車塚古墳は3段の段築を持つ点で突出する。後円部2段の段築を持つ古墳は、高槻茶臼山古墳・鹿谷古墳・保津車塚古墳・沢3号墳・岫山1号墳の5基が挙げられる。

埴輪については、小規模な前方後円墳でも確認されたものが複数確認できる。桑田郡では千歳車塚古墳(円筒・人物)、石堂古墳(円筒・人物か)、穴太12号墳(円筒か)、船井郡では黒田北2号墳(円筒・蓋)、何鹿郡では上杉1号墳(円筒・人物)、以久田野78号墳(円筒)、天田郡では稲葉山10号墳(円筒・家・馬・人物)、多紀郡では小丸山1号墳・大滝2号墳(いずれも円筒)が挙げられる。

(5) 立地

鹿谷古墳は標高282mの丘陵尾根頂部に立地しており、丹波地域では、石堂古墳の標高330mに次ぐ高さである。平地との比高差は約160～170mを測り、南・西・南東方向の眺望が開け、平地側からも目立つ。亀岡盆地と西側の篠山盆地・中国山地や北側の日本海地域との交通路の分岐点を意識した立地であると言える。

(6)小結

鹿谷古墳は、大規模な円丘部と未発達な前方部といった、同時期の丹波地域に分布する前方後円墳には認められない墳丘規格を持つ。円墳と考えれば、丹波地域内の円墳、方墳の中では最大級である。2段の段築を持つ点においても優位に位置すると考える。突出して標高が高く、眺望良好な地点に立地している点も注目される。

4. まとめ 一墳丘から見た鹿谷古墳の位置付け一

以上の検討を踏まえ、丹波地域内での鹿谷古墳の位置付けについて編年・階層的視点などから考えてみたい。

鹿谷古墳の築造されたMT85型式期、6世紀中頃は千歳車塚古墳の築造後であり、丹波地域内でも前方後円墳の数は減少していく段階と考えられる。同時期あるいは直後の時期には、前方後円墳である洞中2号墳や牧正一古墳が築造され、牧古墳群・洞中古墳群といった有力な系譜の古墳群の築造が開始されるものの、両古墳群とも以降は円墳に変化する。前方後円墳の優位性が次第に薄れていく中で、鹿谷古墳は墳丘だけ見れば、同時期の各地域の最大規模の古墳よりもやや大きい墳丘を持つ。しかしながら、墳形によって、その位置付けは大きく変動する。前方後円墳の場合は、千歳車塚古墳に引き続き前方後円墳を採用した有力古墳と考えられる。円墳や造出付円墳の場合は、これらの墳形の中では突出した規模・内容を持つ古墳である。現状では、いずれの場合でも、千歳車塚古墳以降の亀岡盆地内での最上位層の古墳と考えられ、丹波地域全体でみても、この時期屈指の規模・内容を持つと考える。

古墳時代後期の丹波地域では、亀岡盆地、綾部・福知山盆地、篠山盆地をはじめとする、盆地毎に多様な様相が認められ、一元的な階層性は見出しがたい。千歳車塚古墳ほどの傑出した規模・内容であれば、丹波地域全体での頂点とも言えようが、鹿谷古墳の段階では各主要古墳の差は縮小しており、頂点とは言い切れない。後期全体の階層性については、横穴式石室や副葬品などの他の要素からも、小地域毎に詳細に様相を分析していき、丹波以外の周辺地域も含めて、相互の関係性などを検討していく必要がある。

今回の検討によって、鹿谷古墳の墳丘からは規模・内容の突出や墳形の特異性などが窺えることを確認した。また、特に立地についても丹波地域有数の好立地であり、日本海側、

畿内、西の篠山盆地・中国山地など、複数方面の分岐点と言える状況を確認した。こうしたことから、丹波地域全体でも上位層に位置する古墳であると言える。

今回、主に検討した墳丘は古墳を構成する要素の1つであり、埋葬施設や副葬品といった他の要素を分析し、古墳時代後期の丹波地域の様相について引き続き検討していきたい。

(あらき・せな = 当調査研究センター調査課調査員)

注1 本古墳の名称については、これまでに「鹿谷18号墳」や「鹿谷5号墳」等の複数の呼称があり、現状で統一されていない。小稿では、諫早直人氏の指摘に従い(諫早2019)、明治14(1881)年に地元民・ゴーランド・京都府によって調査・記録され、2010～2013年度の測量調査によって、上記の古墳と同一である可能性が高いと判明した古墳を鹿谷古墳と呼称する。

注2 ゴーランド・コレクション調査プロジェクト『京都府亀岡市鹿谷古墳の研究』ゴーランド調査古墳の研究2 ゴーランド・コレクション調査研究報告書第2号 2019 に一連の調査成果がまとめられている。

注3 『前方後円墳集成』近畿編 1992

注4 富山直人2007「京都丹波の横穴式石室」『近畿の横穴式石室』横穴式石室研究会、安井蓉子2007「石棚を有する横穴式石室の伝播について－丹波・丹後・摂津を中心に－」『寧楽史苑』第52号 奈良女子大学、など

注5 山城考古学研究会1983『丹波の古墳Ⅰ』－由良川流域の古墳－

注6 三好博喜2006「由良川流域の前方後円墳集成」『京都府埋蔵文化財論集』第5集(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、三好博喜2010「支配権の分割－京都府綾部市上杉4号墳の測量調査から－」『京都府埋蔵文化財論集』第6集(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターなどがある。

注7 三好博喜2016『高槻茶白山古墳内容確認調査報告』綾部市文化財調査報告第42集 綾部市教育委員会

注8 前掲注6・7など

参考文献

荒木瀬奈2014「鹿谷古墳群茶ノ木山支群18号墳測量調査(ゴーランド・コレクション調査プロジェクト)」『京都橘大学歴史遺産調査報告2013』京都橘大学文学部

亀岡市史編さん委員会1995『新修亀岡市史』本文編第1巻

亀岡市史編さん委員会2000『新修亀岡市史』資料編第1巻

京都府埋蔵文化財研究会2000『京都府の首長墓』第8回京都府埋蔵文化財研究集会

京都府埋蔵文化財研究会2015『古墳時代後期における地域首長墓像』第22回京都府埋蔵文化財研究集会

平良泰久・瀬戸谷皓1990「4、北部(京都北部・兵庫北部)」石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編『古墳時代の研究』10 地域の古墳Ⅰ 西日本

富山直人2007「京都丹波の横穴式石室」、「兵庫丹波の横穴式石室」『近畿の横穴式石室』横穴式石室研究会

細川修平・今尾文明2011「5、近畿」広瀬和雄・和田晴吾編『古墳時代 上』講座日本の考古学7 青木書店

細川康晴2016「古墳時代後期の京都」『京都府埋蔵文化財論集』第7集(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

付表 丹波地域における前方後円墳一覧1

番号	古墳名	立地	標高 (m)	墳 丘 (m)						外表施設				内部構造	出土遺物	時期		
				墳長	後円部			前方部			主軸	段築	葺石				埴輪	周溝
					径	高	5~8	長	幅	高								
1	鹿谷古墳	丘陵 尾根 頂部	282	55	38	5~8	16	8	2	N19° W	2段 (円 丘 部 の み)				横穴式石室 (両袖、石棚)	刀馬具(F字、鞍 金具(ほか)) 玉類(ガラス 小玉、土玉) 須恵器(台付子持 壺、台付き子持壺 蓋、杯蓋、杯身、壺、 埴)	MT85	
2	千歳車塚古墳	平地	100	81	46	7.5	40	49	6	N25° W	3段	○	円筒・ 人物	2重			6世紀 前半	
3	拝田16号墳	丘陵 尾根 先端	119	44	30	6	14	23	5		1段				横穴式石室 (両袖、岩橋 型)		6世紀 前半か	
4	石堂古墳	丘陵	330	36.5	20.5	4.5	(16)	25	3- 4.5	N24° E			円筒・ 人物か				6世紀 前半か	
5	保津車塚古墳 (按察使1号 墳)	平地	90	36	26.8	(32)	9.2	約 20		N10° 20E	2段	○	※木製 立物 (笠・ 石見)	2重		周濠内：須恵器(杯 蓋、高杯、甕、台付 有蓋壺)、土師器な ど	TK23・ TK47	
6	野条古墳	平地	105	27 以上						南							(伝 甲冑・刀剣)	時期不 明
7	穴太12号墳	丘陵 尾根 上	135	28	16	2.5	12	10	1.5	N130° W		○	○			須恵器(採集)	中～後 期か	
8	うさの古墳	丘陵 尾根 上	135	37	23	7	(14)	18	4	N18° W					横穴式石室		後期	
9	黒田北2号墳	丘陵 尾根 上	174	19	12	2	(7)	8	1.3	N42° W			円筒・ 蓋		箱形木棺	鉄鏃、刀子、須恵器 (杯蓋、高杯)、土師 器(甕)	TK23、 TK47	
10	カナヤ1号墳 (乗鞍古墳)	台地	155	34.5	20	5	(15)	18	3.5	N150° W					横穴式石室 か		後期か	
11	豊田車塚古墳 (きものも り古墳)	平地	155	31.5	19.5	4.5	(12)	7.2	1.5	N140° W						須恵器	5世紀 ～6世 紀か	
12	高槻茶白山古 墳	丘陵 端	105	54	34	5.5	23	30	3.5		2段					須恵器(蓋杯、高杯、 提瓶、子持壺、器台、 甕)、土師器	MT15	
13	野崎5号墳	丘陵 端	99	27	20		8.5	14		N150° W				○		須恵器(杯蓋、高 杯)、土師器(高杯、 甕)	後期初 頭	
14	上杉1号墳	丘陵 端	100	45	18	4.2	(27)			南			円筒・ 人物		横穴式石室 か		6世紀 中頃か	
15	上杉4号墳	丘陵 端	126	32.8	20.5	2.5 ～ 5	15	21	0.2 ～ 3.3	N117° W							後期前 葉か	
16	松山5号墳	丘陵 端	75	45	23	3.5	(22)	25	4.1	N89° W						須恵器(杯、表面採 取)	6世紀 前葉か	
17	沢3号墳	丘陵	40	46	24	4	23	26	4.5	N25° W	2段	○	円筒		礫床	頭甲、馬具(F字)、 三環鈴、鉄斧	中期末 ～後期 初頭か	
18	以久田野78 号墳	丘陵	74	38	23.5	3.6	16	25	3.5 以上	N60° W			円筒				後期	
19	殿山1号墳	丘陵 頂部	110	47	30	5.5	20	24	5	N130° W						須恵器(採取)	時期不 明	
20	上村7号墳	台地 縁辺	72	40	21	5	19	20	3.5	N35° W					横穴式石室	須恵器(採取)	後期	
21	瀬戸18号墳	丘陵 上	75	40	26	4	(14)	11	2.6	N115° W							後期か	

前方部長の()は筆者が測量図から計測した

付表 丹波地域における前方後円墳一覧2

番号	古墳名	立地	標高(m)	墳 丘(m)						外表施設				内部構造	出土遺物	時期	
				墳長	後円部		前方部			主軸	段築	葺石	埴輪				周溝
					径	高	長	幅	高								
22	稲荷山古墳	丘陵 陵	70	30.5	18.5	2.7	12	18.4	1	N160° W							後期か
23	鮎山1号墳	丘陵 陵	61	47.4	27.2	3	20.2	24	3	N175° W	2段						5世紀末～6世紀初頭か
24	男塚1号墳	丘陵 陵	55	28	21	2.5	11	17.5	4	N60° W				横穴式石室	須恵器(杯・高坏・高坏蓋)(採集)		後期中頃
25	稲葉山10号墳	丘陵 陵	50	38	24.5	3.8	15.5	21	3.1	N85° W			円筒・朝顔・家・馬・人物	礎床	長頸鑑、須恵器(杯・高坏・短頸壺)		MT 15
26	中之段16号墳	丘陵		26		2								横穴式石室			後期
27	妙見11号墳	丘陵 平坦	66	39.1	23.4	5	18.5	24.6	3	西				横穴式石室			後期
28	牧正一古墳	丘陵 陵	21	34 ～ 37	20	5以上	15	30	5以上	N55° E		○		横穴式石室 3基	須恵器(裝飾付壺、子持台付長頸壺)、土師器、鉄地金銅張雲珠、格子透文心葉形杏葉、耳環、鉄鑑、長頸鑑、刀子など		TK43～209(前方部石室)
29	稲荷山古墳	山頂	260	22	13	3.5	9	14	3	ほぼ北				横穴式石室(T字型)			後期
30	宝地山2号墳	尾根 上	220	32	22		12.5	11							仿製七鈴鏡		中期末～後期初頭
31	イゴリ塚古墳	山腹	240	23.5	16.5		(7)	13						横穴式石室	須恵器(蓋杯)		TK10か
32	洞中2号墳	尾根 先端	257	27	17	5.5	12	17	3	N115° E		○		横穴式石室(左片袖)			TK43
33	峠尻2号墳	尾根 上	210	28	19		14	11						横穴式石室	不明鏡、玉類(碧玉製管玉、水晶製切子玉、勾玉)鉄刀、冑、金銅張馬具、素環鏡板付轡、須恵器		後期
34	吹ヶ谷1号墳	尾根 上	210	14		1								横穴式石室か			後期か
35	半鐘塚1号墳	尾根 先端	210	25		3				N40° W				横穴式石室か	須恵器(有蓋高坏)		後期か
36	小丸山1号墳	山頂	160	17	8		(9)	9		N20° W			円筒	横穴式石室			後期
37	大滝2号墳	尾根 先端	200	28	20	4	9.5	12.5	1	N115° W			円筒	第1主体:箱形木棺 第2主体:木棺か	第1主体内:仿製重圈文鏡、ガラス小玉、鉄劍、曲刃鎌 第1主体外:メノウ勾玉、鉄鑑広身、曲刃鎌、鏡板、須恵器ほか 第2主体:鉄刀、鉄鑑、馬具、土師器壺、須恵器		TK23
38	二間塚古墳	平地	70	34	18	4	16	16		N90° W							時期不明
39	坂1号墳	丘陵		23										横穴式石室(両袖)			後期中頃
40	坂2号墳	丘陵		20										横穴式石室(両袖)			後期後半～中頃

前方部長の()は筆者が測量図から計測した

【各古墳基礎情報・測量図引用文献】

鹿谷古墳：注2と同じ

千歳車塚古墳：中澤勝 2006『市内遺跡発掘調査報告書 国営農地再編整備事業関連遺跡発掘調査
時塚遺跡・千歳車塚古墳・出雲遺跡・池尻遺跡・池尻廃寺・蔵垣内遺跡』亀岡市文化財
調査報告書第73集 亀岡市教育委員会

拝田16号墳・穴太12号墳：亀岡市史編さん委員会 2000『新修亀岡市史』資料編第一巻

石堂古墳：堀晋平・岡本健太郎・岩本雅人・中村健太 2005「石堂古墳の測量」『久遠の知』－「日
本文化コース」レポート第9集－ 京都府立亀岡高等学校

保津車塚古墳：戸原和人 2002「保津車塚古墳（案察使1号墳）第2次」『京都府埋蔵文化財概報』
第103冊（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

うさの古墳：辻健二郎 2016『南丹市内遺跡発掘調査報告書10 平成27年度（うさの古墳／寺内西古
墳群／小山城跡）』南丹市文化財調査報告第23集 南丹市教育委員会

黒田北2号墳：森下衛・辻健二郎 1991『船阪・黒田工業団地予定地内遺跡群発掘調査概報』園部町
文化財調査報告書第8集 園部町教育委員会

カナヤ1号墳・豊田車塚古墳・稲荷山古墳（丹波篠山市）・宝地山2号墳・イゴリ塚古墳・峠尻2号墳・
吹ヶ谷1号墳・半鐘塚1号墳・小丸山1号墳・二間塚古墳・野条古墳：注3と同じ

高槻茶臼山古墳：注7と同じ

野崎5号墳：小山雅人 1987「野崎古墳群」『京都府遺跡調査概報』第24冊（財）京都府埋蔵文化財
調査研究センター

上杉1・4号墳：注6と同じ

松山5号墳：三好博喜 2000「綾部市吉美地区で新たに確認した前方後円墳と中世山城－松山5号墳
－」『太邇波考古』第15号 両丹考古学研究会

沢3号墳・以久田野78号墳・稲荷山古墳（綾部市）・男塚1号墳・稲葉山10号墳・妙見11号墳・
長者森古墳：注5と同じ

殿山1号墳：三好博喜・井口一三 2000「殿山古墳群測量調査概報」『京都府綾部市文化財調査報告』
第28集 綾部市教育委員会

上村7号墳：三好博喜 2004「非対称の前方後円墳－綾部市上村7号墳－」『太邇波考古』第21号
両丹考古学研究会

瀬戸18号墳：三好博喜 2005「円墳群を従える前方後円墳－綾部市瀬戸18号墳－」『太邇波考古』
第22号 両丹考古学研究会

岫山1号墳：三好博喜 2003「綾部市岫山古墳群－岫山3号墳の測量図から－」『太邇波考古』第19
号 両丹考古学研究会

中之段16号墳：大概真純・崎山正人 1986『中之段4号墳』福知山市文化財調査報告書10 福知山市
教育委員会

牧正一古墳・弁財1号墳：八瀬正雄 1997『牧正一古墳』福知山市文化財報告書第34集 福知山市
教育委員会

大滝2号墳：大滝2号墳発掘調査団 1981『大滝2号墳』多紀郡西紀・丹南町文化財調査報告2 西紀・
丹南町教育委員会

洞中1・2号墳・坂1・2号墳：横穴式石室研究会 2007『近畿の横穴式石室』

以上のほか、各都道府県・市町村の遺跡地図等を参照した。